



## 公明党 森 しず子 議員

- ①子育て支援施策について
  - (1)乳幼児医療費のさらなる拡充について
  - (2)妊婦健診の公費負担の拡充について

**質問①(1)** 市民からの要望が強い乳幼児医療費の対象年齢の拡充についてどう考えるか。義務教育就学前まで拡大できないか。窓口で医療費の自己負担分を一旦支払い、後から戻す「償還払い方式」を「現物給付方式」に替えられないか。

**答弁①(1)** 就学前までの通院分の助成については、現在の入院分と同様に、義務教育就学前まで引き上げを行う

こととし、平成19年度中には実施したい。「現物給付方式」への変更については、県内で国民健康保険を共同で実施している関係上、県下で足並みを揃える必要が生じてくるが、県に対して現物給付の採用について、働きかけをしていきたい。

**質問①(2)** 妊婦健診は出産までに15回程度受けるのが一般的であるが現在は公費負担は2回となっている。妊婦の経済的負担の軽減を図るため、公費負担を拡充する考えは。

**答弁①(2)** 健診費の公費負担及び回数については、平成9年度から県内の医療機関であれば同じように受診ができるよう市町村会と県の医師会が契約をし、現在にいたっている。拡充については県下で統一的に実施されており、今後三重県市長会・三重県医師会との中で、協議が進められていくべきものと考えている。



## あくていぶ21 青木 啓文 議員

- ①人材育成基本方針について
- ②「鈴鹿の水」の活用について

**質問①** 人材育成基本方針策定にあたっての決意と方針実現のための施策は。また職場外体験研修は実施するのか。

**答弁①** 地域主権の進展に伴い、地方自治体も自己決定、自己責任の前提で自立した行政運営を行い、地域の実情に即した個性豊かな施策展開が求められている。人材の育成と活用が非常に重要と認識しており、職員の意識改革につなげ、着実な計画の実現を図っていく。また職場外体験研修については、今後の自治

体経営に益々必要と認識しており、検討を進めていく。

**質問②** 水道水のペットボトル化と、災害用保存飲料水としての活用は。また鈴鹿ブランドとして活用できないか。

**答弁②** 今年、鈴鹿市水道事業が60周年を迎えることから、記念事業として水道水源である井戸水を利用して1万2000本(500ミリリットル)のペットボトル化を行う。防災への活用については、市民や事業者向け啓発用、総合防災訓練などで活用を図る。また、市の産業振興施策として「鈴鹿ブランド」を活用して植木、卵、ひのななどの地域産業として振興を図ってきたい。



職員人権研修



## あくていぶ21 矢野 仁志 議員

- ①働きやすい職場環境の充実について
- ②特別支援教育について
  - (1)四月から始まる本市の取り組みについて
- ③長太の大樟樹勢回復と今後の対策
  - (1)原点復帰
- ④二本木橋交差点の改良と見直し

**質問①** 教職員の精神疾患による病気休暇などの市内の実態は。長期の病気休暇などから、学校現場に復帰する際には、どのような支援制度があるのか。

**答弁①** 平成17年度、1ヶ月以上の休暇を取得した教職員総数は11名で、このうち休職に至ったのは6名である。支援制度には「三重県公立学校教職員復職支援制度」や「勤務軽減制度」がある。

**質問②** 特別支援教育により従来の障害児学級の子どものための支援は。通常学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症等の子どもたちの支援は。

**答弁②** 従来どおり障害児学級の種別や障害の程度に応じ認可をしていく。小学校4校に特別支援教育コーディネーターの活動を支援するための非常勤講師が配置され、さらに、LD等の生徒を対象とした通級教室を1学級設置することとなり、特別支援教育のセンター的な役割を担う機能を持たせたい。

**質問③** 昭和38年当時の状況に戻らないのか。

**答弁③** 現実的に困難であるが、保存に努めたい。

**質問④** 二本木橋における歩行者等の安全対策は。

**答弁④** 交差点改良は、県も側道橋の必要性は充分認識している。県道に接続する市道部分の改良は、関係者の理解が得られ次第検討したい。